

野菜の需給・価格動向レポート(平成28年7月19日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	6月の価格情報				7月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の7月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	上旬			
		中旬	下旬						
葉菜類	キャベツ	67.20	99	88	74.19	72	・入荷量: 15,447t ・主産地: 群馬(71)、岩手(11)	平均価格	群馬産は、適度な降雨と好天に恵まれ生育は順調で、前進出荷傾向となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。岩手産は、天候不順により日照不足で生育が遅れが見られ、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復により出荷は回復し、平年並みの出荷の見込み。
		81.66	107	97	88.91	73	・入荷量: 3,681t ・主産地: 群馬(56)、長野(34)		
	たまねぎ	78.12	131	125	93.34	140	・入荷量: 9,073t ・主産地: 兵庫(42)、佐賀(26)、香川(9)	→	兵庫産は、べと病等の発生により、引き続き平年より出荷が少なめではあるが、貯蔵用を市場出荷に回すことにより、平年並みの出荷の見込み。佐賀産は、収穫作業が終了し、現在貯蔵分の出荷となっているが、本年産はべと病等の影響により、貯蔵分が平年に比べ少ないことから、引き続き平年を下回る出荷の見込み。香川産は、病害等による生育遅れが見られ、引き続き出荷終盤まで平年より少なめの出荷の見込み。
		78.12	156	139	93.34	167	・入荷量: 4,009t ・主産地: 兵庫(81)、佐賀(6)、長崎(6)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	277.31	423	416	287.00	416	・入荷量: 3,946t ・主産地: 茨城(61)、千葉(12)	→	茨城産は、干ばつ気味で、やや細物が多いものの、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、露地物が出荷されており、7月いっぱいでは概ね終了を見込んでいるが、生育が順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		334.73	373	311	487.13	307	・入荷量: 224t ・主産地: 鳥取(44)、北海道(19)、大分(14)、茨城(8)		
	はくさい	67.05	86	54	58.82	53	・入荷量: 5,841t ・主産地: 長野(87)	→	長野産は、適度な降雨と好天に恵まれ、生育が順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
		74.06	87	54	62.79	52	・入荷量: 2,693t ・主産地: 長野(96)		
	ほうれんそう	376.10	475	468	583.95	626	・入荷量: 973t ・主産地: 群馬(27)、茨城(21)、栃木(20)、岩手(13)	→	群馬産は、現在高冷地の中生の出荷が主流となっており、適度な降雨により、生育が順調なため、現在平年並みの出荷は、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産及び栃木産は、概ね天候も良く生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		416.73	558	579	670.86	649	・入荷量: 456t ・主産地: 岐阜(77)、北海道(10)		
	レタス (結球)	120.13	111	95	120.13	102	・入荷量: 9,485t ・主産地: 長野(83)、群馬(12)	→	長野産は、適度な降雨と好天に恵まれ、生育は順調となっていることから、引き続き平年並みの見込み。群馬産は、曇天の影響で、ほ場により生育進度にはばらつきがみられるものの、概ね生育は順調であることから、引き続き多めの出荷で推移する見込み。
		125.61	115	98	125.61	104	・入荷量: 2,028t ・主産地: 長野(98)		
果菜類	きゅうり	189.84	232	275	221.22	339	・入荷量: 7,667t ・主産地: 福島(41)、岩手(15)、秋田(11)、山形(6)	→	福島産は、露地物の主産地の出荷が出揃い、徐々に出荷量が増加していることから、今後も平年よりやや多めの出荷の見込み。岩手産は、梅雨の日照不足による生育の遅れで、平年より少なめの出荷となっているが、今後は天候の回復及び夏秋物の増加により、平年並みの出荷の見込み。秋田産及び山形産は、露地物が低温により生育がやや遅れているため、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は気温の上昇とともに生育が回復すると見込まれることから、平年並みの出荷に回復する見込み。
		186.08	222	251	232.80	317	・入荷量: 1,906t ・主産地: 福島(35)、北海道(20)、愛媛(14)		
	トマト (大玉)	230.55	269	272	252.46	270	・入荷量: 8,529t ・主産地: 青森(17)、北海道(12)、岩手(9)、千葉(9)、栃木(9)、福島(9)	→	青森産は、適度な降雨と好天に恵まれ、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、天候に恵まれ生育は順調で、平年よりも多めの出荷となっているものの、今後は出荷も落ち着き、平年並みの出荷の見込み。岩手産は、天候不順による日照不足や低温で、平年より少ない出荷量となっているものの、今後は天候の回復により、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、夏秋作の本格出荷に入り、やや前進傾向となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
		239.96	292	280	298.46	314	・入荷量: 1,735t ・主産地: 北海道(45)、熊本(11)、岐阜(10)		
	なす	311.92	415	365	230.51	378	・入荷量: 4,469t ・主産地: 栃木(25)、茨城(25)、群馬(25)、福岡(5)	→	栃木産は、5月の定植時期の乾燥や高温の影響で草勢があまり良くないことから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているものの、最近の気温高により生育が回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。群馬産は、適度な降雨により露地物の生育が順調なため、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		271.01	349	300	232.81	289	・入荷量: 1,049t ・主産地: 山梨(26)、大阪(14)、徳島(13)、奈良(9)、愛媛(6)		
	ピーマン	276.65	346	350	276.65	369	・入荷量: 2,425t ・主産地: 茨城(55)、岩手(26)、福島(9)	→	茨城産は、春作の終盤を迎える中、今後出荷される抑制栽培物についても順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。岩手産は、日照不足等による花落ちなどが発生していることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		293.32	316	360	293.32	366	・入荷量: 499t ・主産地: 青森(14)、兵庫(14)、高知(12)、大分(12)、北海道(8)		
	だいこん	86.59	91	89	94.60	130	・入荷量: 8,908t ・主産地: 北海道(60)、青森(35)	→	北海道産は、日照不足や低温等の影響により、生育の遅延や生育不良が発生していることから、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復により、平年並みの出荷の見込み。青森産は、天候は概ね良好で適度な降雨もあり、生育は順調で、太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		89.53	99	99	95.37	130	・入荷量: 3,071t ・主産地: 北海道(70)、青森(16)、岐阜(11)		
	にんじん	133.01	125	112	133.01	99	・入荷量: 6,584t ・主産地: 青森(44)、北海道(31)、千葉(21)	→	北海道産は、降雨や曇天により収穫が順調に進んでいないことから、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は、天候が回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。青森産は、天候は概ね良好で適度な降雨もあり、生育は順調で、太りも良いことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		132.62	134	115	132.62	104	・入荷量: 1,546t ・主産地: 青森(51)、北海道(33)、和歌山(10)		

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	6月の価格情報				7月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の7月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格		(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	上旬			
		中旬	下旬						
いも類	さといも	361.20	472	515	361.20	509	・入荷量：264t ・主産地：宮崎(48)、鹿児島(27)	→	宮崎産は、降雨等の天候不良の影響で、入荷が伸びず、現在平年よりやや少なめの出荷となっており、今後は露地物が盛期を迎えるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、次期作の種イモの確保に加え、昨年からの病害が広まっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。
		347.90	540	564	347.90	589	・入荷量：60t ・主産地：鹿児島(65)、宮崎(28)		
いも類	ばれいしょ	138.39	195	175	111.77	176	・入荷量：5,653t ・主産地：茨城(29)、千葉(19)、静岡(15)、長崎(15)、北海道(12)	→	茨城産は、降雨により収穫が遅れていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、生育は順調であることから、今後は掘り取りが順調に進めば平年並みの出荷の見込み。千葉県は、天候に恵まれ生育は順調なことから、平年よりやや多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷で終盤に向かう見込み。長崎産は、天候不順の影響により、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。静岡産は、収穫が9割終了し、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。
		144.98	211	193	111.77	190	・入荷量：1,223t ・主産地：北海道(37)、長崎(20)、青森(15)、茨城(9)、千葉(8)、静岡(7)		

注：1 平均価格は、過去6カ年間(平成20～25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字および青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

種類	6月の価格情報				7月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の7月下旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格		(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格	上旬			
		中旬	下旬						
洋菜類	ブロッコリー	371.45	569	523	359.68	517	・入荷量：1,858t ・主産地：北海道(59)、長野(23)、米田(10)	→	北海道産は、天候不順による低温や日照不足により花蕾の形成および肥大が進まず、平年より少なめの出荷となっているものの、天候が回復していることから、今後は平年並みの出荷の見込み。長野産は、適度な降雨が生育を促進していることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		376.30	562	567	374.14	549	・入荷量：410t ・主産地：北海道(46)、長野(36)		
洋菜類	アスパラガス	1103.17	1,373	1,227	990.95	1,204	・入荷量：710t ・主産地：佐賀(21)、栃木(18)、長崎(16)、福島(12)、秋田(8)	→	佐賀産は、夏芽の出荷最盛期となっており、生育も順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。長崎産は、適温、降雨が続き、生育が順調であることから、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。
		1093.69	1,310	1,179	854.32	1,120	・入荷量：216t ・主産地：福岡(24)、佐賀(18)、長崎(16)、タイ(10)		
果菜類	かぼちゃ	209.73	224	234	216.73	238	・入荷量：2,766t ・主産地：茨城(26)、神奈川(22)、鹿児島(12)、栃木(8)	→	茨城産は、春先の気温高により、やや前進出荷となったことから一時的に出荷が減少し、現在平年より少なめの出荷となっているものの、生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、天候は概ね良好で生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、受粉期の天候不順により、着果数が少ないことから、平年より少なめの出荷となっているものの、生育は順調であることから、今後は平年並みの出荷の見込み。栃木産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		153.06	144	127	165.00	119	・入荷量：1,032t ・主産地：長崎(31)、石川(18)、NZ(15)、韓国(8)		

注：1 平均価格は、過去5カ年間(平成23～27年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。
3 旬別価格の赤字および青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。

2 トピック — きゅうりの需給動向等について —

今回は、前回のなすに続き、代表的な夏野菜の一つである「きゅうり」について紹介する。

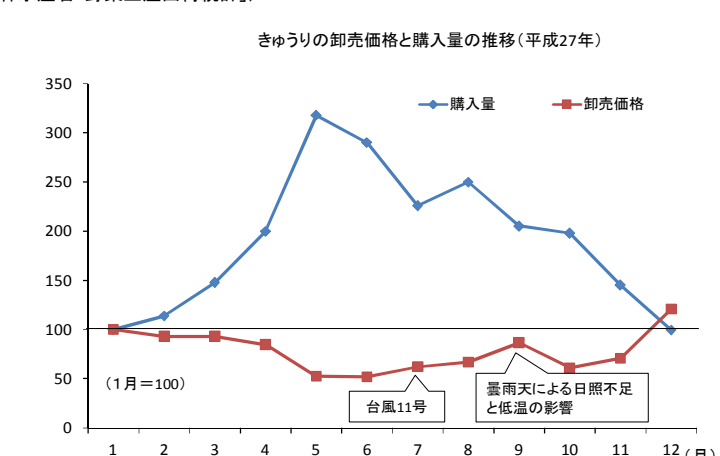
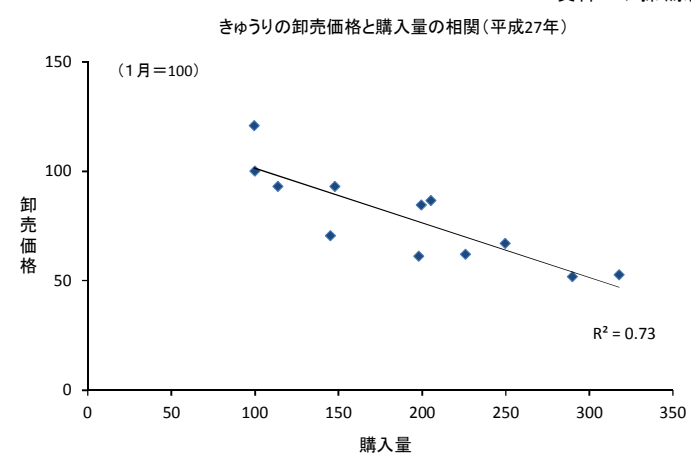
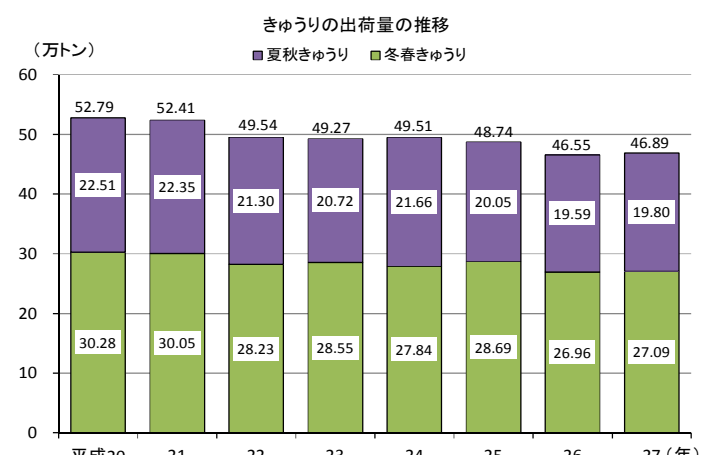
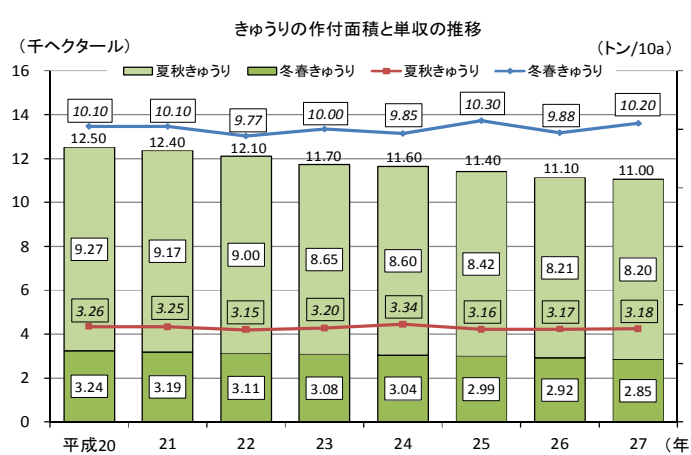
きゅうりは、インドのヒマラヤ山麓が原産で、3000年ほど前から栽培されていたといわれており、日本へは、中国から平安時代中頃に、とげが黒くて多い黒い系(現在は作付が少ない)が、江戸時代末期には、とげが白くて表面が滑らかな白い系(現在の主流)が渡来した。

当時、日本では、完熟した黄色いきゅうり(黄瓜)を食していたといわれ、苦みもかなりあったとのこと。さらに、江戸時代、武士たちは、きゅうりの断面が「葵の御紋」に似ており、これを切ることは、徳川将軍家を切ることに似て、恐れ多いとして、武士の間にきゅうりは普及しなかったといわれている。

そんなきゅうりも江戸末期からは品種改良により、現在のような早取りのきゅうりが普及するようになったといわれており、特徴のある品種が日本各地に生み出されていった。きゅうりの出荷量は、昭和54年には88万8400トンまでに増加したが、その後は減少傾向で推移している。サラダや総菜需要はあるものの、家庭で作る漬物の消費の低下等とともに消費が減退し、作付面積及び出荷量は減少傾向にある。作付面積は、平成20年の1万2500ヘクタールから27年の1万1000ヘクタールと12%減少しており、出荷量も52万7900トンから46万8900トンと11%減少している。

また、この時期に増加する傾向があるきゅうりの購入量と東京都中央卸売市場における卸売価格の相関関係を、総務省「家計調査」を基に分析してみた。夏野菜であるきゅうりは、主に春から秋にかけて生産量の増加とともに卸売価格が低下し、春のサラダ需要とともに購入量が増加するが、台風等の天候不順の影響で卸売価格が高くなると、消費者は購入を控える傾向が顕著に表れている。

このような価格と購入量の関係は、食の多様化が進み、野菜の種類も多様化する中で、夏の涼味野菜としてのきゅうりの地位も絶対的ではなくなっていることを示すものかもしれない。



資料：ペジ探(原資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、松岡、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方は当機構のホームページのトップ画面、メールマガジンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajuky01_000058.html に掲載しています。
※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。